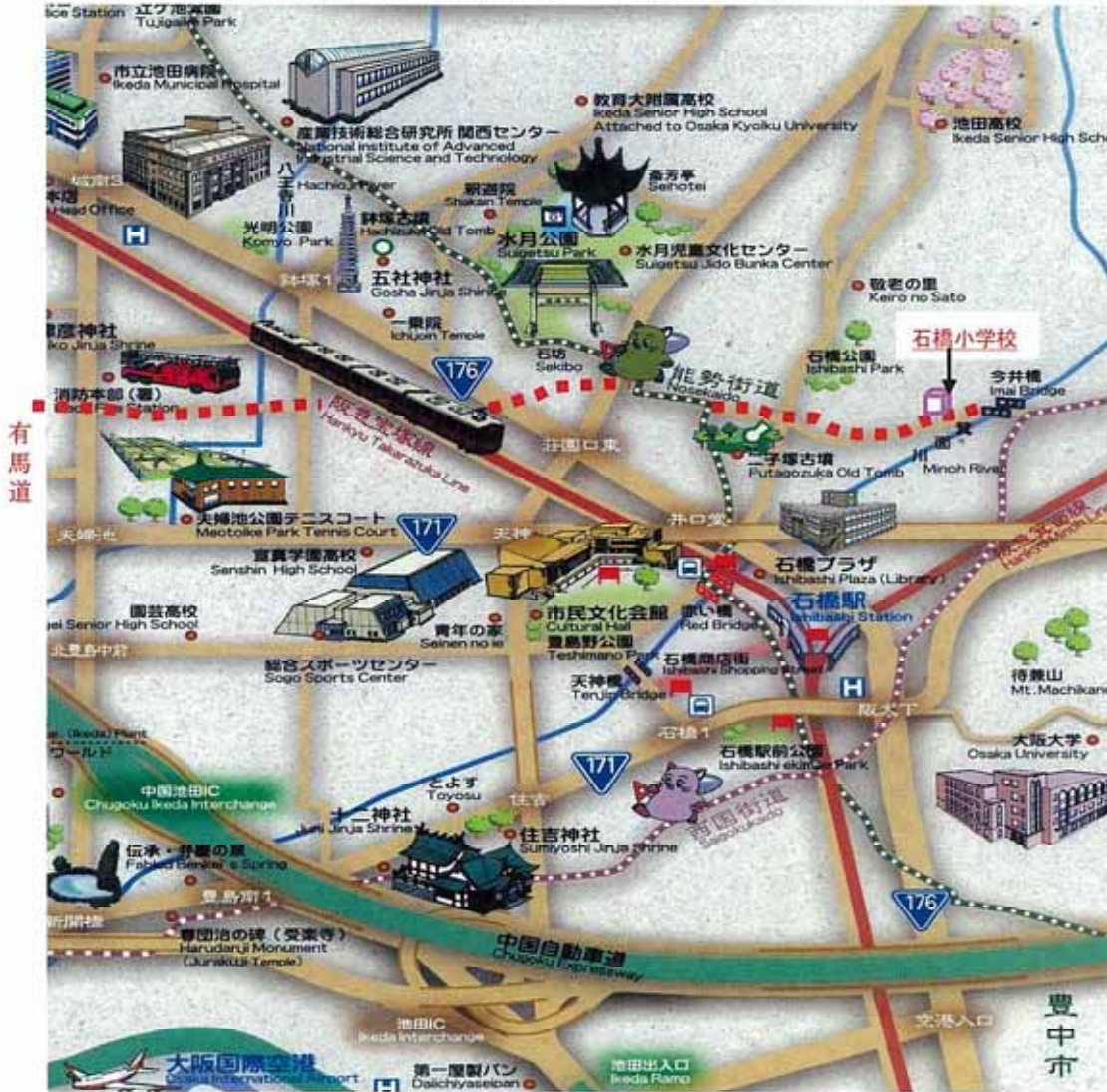


第3号は、わが地域の歴史街道の探索特集号です。みなさんご存知ですか、石橋小校区内には能勢街道と西国街道それに有馬道の3つの街道が交差するめずらしい地域です。



池田市観光協会発行のマップより転用しました。

有馬道は我が石橋小学校校区で最もなじみがあります。

箕面市瀬川2丁目で西国街道と分岐し今井橋から石橋小学校の正門を通過して、ミニコープを更に西へ進む道路が有馬道です。江戸時代には西国街道から池田に行く能勢街道の近道として多くの人を通りました。

時は流れ平成です。今は石小の生徒達が通学路として歩いています。何時の時代でも道は安全であって欲しいものです。皆さんも家族と一緒に、この3つの街道を歩いてみませんか。きっと新しい出会いがあるかもしれませんね。

**能勢(のせ)街道**：大阪から池田を経て能勢・亀岡方面に通じる道で、その道筋は時代によって多少異なりますが、明治の中ごろは、大阪市街付近の下三番（現北区中津）から中津川（現新淀川）を渡り、神崎川の三国橋を渡って服部、桜塚、岡町と北上し、刀根山の丘陵を超えて、石橋、池田へと至りました。

石橋小学校校区では、石橋商店街から赤い橋を渡り、阪急バス石橋営業所車庫の真ん中の道を北上し、突き当りの三叉路を左折し、水月公園に向かう道です。

**西国街道**：古くから京と西日本を結ぶ主要道として位置付けられてきました。道の基点は京の羅生門辺りで、大山崎、高槻、西宮、須磨浦を経て山陽道へと接続し、西国大名の参勤交代にも利用されました。箕面市瀬川2丁目の箕面川に架かる今井橋から南に歩き、国道171号バイパスをくぐり、阪急箕面線を過ぎると、国道171号線と合流します。すぐに国道を離れ、右手（南西）の水路沿いの道を進むと石橋阪大下交差点に至ります。信号を渡り、交差点南側の「バラ園」を右手に進むと阪急宝塚線の西国街道踏切にでます。（下線部分が石橋小学校校区です）

**有馬道**：箕面市瀬川2丁目で西国街道から分岐し、西へ向かう道です。井口堂、神田、猪名川を渡り、川西市加茂、宝塚市小浜、西宮生瀬を通り、有馬へと通じます。石橋小学校校区では今井橋から石橋小学校を右手に西に進み、池高道を越え、しばらくすると三叉路に至ります。150メートルで再び三叉路があります。地蔵をまつる小さな祠を右手に進む道です。





井口堂北会館を北に歩いて突き当たりを左折して進むと右の写真の場所にたどり付く。写真の右角に井口堂の道標がある。



ニシンジョの地蔵と道標「右ハいけだみち 左ハありまみち」とあります。



井口堂の道標。中央に「右八大坂道、左八京道」右に「右大坂」西国街道瀬川から別れ有馬に向かう有馬道に合流。



この裏側には標高約45mの二子塚古墳があります。住宅街が広がる真ん中にあたかも島を思わせるように小高い山が残っている



街道沿いの旧家



池田市・箕面市・豊中市の交差する街道

西国街道は南に折れ、国道171号と阪急箕面線を同時に横切ります。この付近は箕面市、豊中市、池田市の境界が複雑に入り組み、飛び地も存在しています。街道と境界が一致することは多いようです。

こうして普段何の気なしに歩いている私たちの生活空間が、その昔東西の経済を支えてきた道、しかも車も自転車もなく、歩いて何日も何日もかけて、宿場でだんごを食べては休みながら旅したのです。そうです、今から約2百数十年前のお話でした。



国道171号線から阪大下交差点を斜めに進むと阪急宝塚線の踏み切りへと西国街道は続く

### 参勤交代

江戸時代、大名が領地を離れ、一定期間を江戸で過ごさなければならない制度です。江戸に移動するための大名の財政負担は大きかったのですが、交通が整えられたり、宿場がさかえたりするなどのメリットもあったようです



### クイズ

- ①前もって、その国の大名に「何日に入るから・・・」など事前に知らせるのでしょうか？ それとも、知らせる必要は、なかったのでしょうか？
- ②参勤交代の途中に、その国の殿様と酒を酌み交わし、話をするなどあったのでしょうか？

この通信3号では、文及び画像・イラストはインターネットより一部転用しました。